

# 平成 26 年度 2 級建築士設計製図試験の講評

## 「介護が必要な親(車椅子使用者)と同居する専用住宅(木造 2 階建)」

コスモ建築塾の製図講習会の予想と試験内容(製図講習会は、課題に対応するエスキスが勝負)

試験課題の主な内容と問題点	講習会で指摘した事項と試験の内容
エスキスラインについて	11年続いたエスキスライン(北より5コマ、3コマ、10コマ)で講義した。試験の直前に3コマを4コマに変更した。これは車椅子の回転軌跡と介護に対する配慮によるためである。10日程度早く連絡すべきだった。車椅子の分析が不十分だったと反省している。
廊下の幅について	車椅子の回転半径は約1200mmである。壁に手摺等が必要であれば、限界寸法となる。車椅子の動きに必要なスペースは余裕が必要なので、廊下の芯々寸法は1820mm(4コマ)となる。しかも家族による介護スペースに配慮すれば、1365(3コマ)では不十分である。
スロープについて	住宅の南面は一般的に庭で構成されるスペースである。従って庭の雰囲気大切に、スロープは最小限のスペースと指摘した。課題文も外出時は介護を必要とし、勾配も1/15から1/12に変更され、少しでもスロープの長さを短くする努力がされている。
介護によるスペースの寸法	水場廻り5コマ(2275mm)、廊下4コマ(1820mm)、主要な部屋10コマ(4550mm)と指摘。
玄関	大きいスペースの玄関から屋内に乗り入れるスロープの設置は、課題(12)で同じ納まりを演習した。

出題文の構成は主要室がほとんど適宜とあり、細かい判断が受験生側にまかされている。但し、延べ面積が今までの試験にない厳しさと、面積の余裕は2%程度しかない。エスキスが終了した時点でどこが減らせるかを考える能力(実践的能力)が要求されている。今回の試験は、今後の試験の傾向に参考とすべき点が多い。

私は今回の講義の終盤に、念のため、車椅子生活10年の友人にヒヤリングした。

その内容を参考のため、記載しておきます。

- ①車椅子生活のスペースは余裕が必要。
- ②建具には直角に対峙しないと開閉が難しい。
- ③実生活の中で、車椅子のタイヤを玄関で落として屋内に入るとは現実的でないと言われた。
- ④雨の日に車椅子使用者を車に移乗させることは難しい。傘を差す人と抱きかかえる人が2人必要となる。従って、ビルトイン駐車場が必要となる。
- ⑤洗面化粧台には直角に対峙して、カウンターの下に足が納まる必要がある。
- ⑥手摺は廊下、部屋の一部に必要となる。地震の時は思わずその手摺を掴む必要がある。

私の感想として、設計者は机上で安易に説明するが、私の最終判断は、実際に不自由な生活をしている人の話が決め手となったことを報告します。